トシテ單ニ銑ヲ鋼化セシムル作用ノミニ就キ「セメント」ハ自己獨特ノ働ヲ生スルモノナルヤ否ヤヲ知ル爲次ノ如リ他ノ諸材料ト比較試驗ヲ行ヘリ

イ、原料及配合物ノ分析

1.「ポートランド、セメント」（小野田製）

SiO_2	Fe_2O_3	Al_2O_3	CaO	MgO	SO_3	i.L.
21.56	3.13	8.03	62.42	1.15	1.13	2.77

ロ、高炉滓（製鉄所産）

SiO_2	FeO	Fe_2O_3	Al_2O_3	CaO	MgO	MnO	P_2O_5	S	Cr_2O_3
31.70	0.78	0.24	12.49	46.16	4.11	3.73	0.01	0.80	Tr

ハ、硅砂（岐阜縣土岐津産）

SiO_2	Fe_2O_3	Al_2O_3	CaO	MgO	K_2O	Na_2O	i.L
94.13	0.52	4.7	0.43	0.39	0.31	0.47	0.74

ニ、木節粘土（伊賀産）

SiO_2	Fe_2O_3	Al_2O_3	CaO	MgO	K_2O	Na_2O	i.L
49.16	0.91	33.81	0.52	0.59	0.79	0.68	13.72

ホ、石灰石（紀州産）

SiO_2	Fe_2O_3	Al_2O_3	MgO	CaO	i.L
0.25	0.234	Tr	0.29	56.69	42.82

銑旋屑（4式15代用彈旋屑）

(Catalytic action) ヲ為スコト

3. 熔解ノトキ「ブリケット」内ニアル赤銹鉄 $\{Fe^2(OH)^6\}$ ガ酸化作用ヲ為スコト

製造方式ノ要領ハ銑旋屑ノ若干赤銹化シタルモノ又ハ赤銹化シタルモノヲ一部分混合シテ全赤銹鉄ノ量ヲ旋屑ノ約4%ニ相當セシム 之ニ約12%ノ「ポートランド、セメント」ト適量ノ水ヲ配合シテ能ク混和シ熔解ニ適當ナル大サ(普通煉瓦位)ノ「ブリケット」ト為シ自然乾燥ニ依テ凝固セシメタル後100～150°Cノ温室乾燥ヲ經メルモノヲ製鋼原料トシテ使用スレハ恰モ適當ナル極軟鋼ノ製造原料トナル

高炉滓ハ粉末トナシ「セメント」ノ成分ニ相當スル石灰ヲ加ヘテ「セメント」ノトキヨリモ稍多ク使用スレバ常温ニ於ケル持形性ハ相當良好ナルモ熔解ノトキ極容易ニ破壊シ且多量ノ「ノロ」ヲ生シ作業ヲ困難ナラシム

III. 研究要領

銑旋屑ノ利用上ニ就キ「セメント ブリケット」ハ常温ニ於テハ勿論又熱間ニ於テモ持形性良好ニシテ金質ヲ悪化セシメザルコトハ前年度報告セル所ナリ 夫レハ別問題

銑旋屑ノ利用ニ關スル研究試驗報告書

昭和6年度研究試驗擔任者　陸軍技師　濱田文藏
陸軍技手　塚本博

一、研究ノ目的

昭和5年度ノ研究試驗ニ於テ銑旋屑ハ「セメント」ヲ以テ混凝土シタル「ブリケット」ト爲シ電氣炉ニテ熔解スレハ容易ニ優良ナル極軟鋼ニ轉化セシメ得ルコトヲ知リタルヲ以テ本年度ニ於テハ「セメント」カ此ノ働ヲ生スル理由ヲ探知シ以テ之ニ依ル製鋼作業方式ヲ決メ同時ニ「セメント」ノ代用トシテ安價ナル高炉滓ノ利用法ヲ研究スルニ在リ

二、判決

「セメント」カ銑ヲ鋼化セシムルモノハ自己獨特ノ働ニ依ルモノニアラスシテ次記ノ如キ3ツノ合成作用ニ依ルモノノ如シ

1. 「ブリケット」カ電氣炉内ニテ熱セラルルトキ一旦凝結シタル「セメント」中ノ膠狀水（Colloidal water）及水酸化石灰｛$Ca(OH)^2$｝ノ分離ニ依リ発生スル水蒸氣カ酸化作用ヲ生スルコト
2. 熔解ノトキ「セメント」カ空氣ト地金ノ觸媒作用

保存期限 永久

決裁指定

決行指定

政務次官 參與官 回付

決裁 前 後

連帶課名

受領番號 八年伍第一三七號其六

件名 出願特許ニ關シ書面提出ノ件

起元廳(課)名 特許局

決行(決裁)後 回覽課名

大臣

政務次官

次官

參與官

高級副官

書記官

主務局長

主務課長

主務副官

官房主計 御用掛

主務課員

書案筆記者

主務局課		大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
銃五第五六號	昭和九年七月二三日	昭和九年七月廿四日	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日

連帶	決行後 回覽(決裁)
局長	局長
課長	課長

陸普

副官ヨリ造兵廠總務部長ヘ通牒

客年四月十五日附陸造甲第二二二號ニ依ル左記出願特許ニ關シ意見書提出中ノ處更ニ別紙ノ通照會アリタルニ付八月十二日迄ニ書面三通提出相成度依命通牒ス

左記

陸普第四六一一號 昭和九年七月廿七日

銑旋屑ヨリ極軟鋼及各種鋼ノ直接製造法

昭和九年七月拾九日

五三七

昭和九年七月十六日

特許局審査官　河崎文珠次郎

陸軍大臣殿

昭和八年特許願第四二五六號ニ關シ

昭和九年八月十九日限リ左記ニ依ル書面一通ヲ差出スヘシ

記

一、出願人カ意見書ニ於テ主張セル「セメント」ノ凝固作製時ニ附加セラルル混和水カ製鋼上有效ナル作用ヲナスコトヲ確證ヲ得ヘキ論據及其レニ關スル實驗記録ニ關スル書面又ハ文獻

(裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ)

陸軍省 9.7.23 第56號 銃砲課

注意

書類又ハ物件ニハ左ノ文例ニ倣ヒタル書面ヲ必ス添附スヘシ

文例

書類(物件)差出ノ件

昭和　年特許願(實用新案 意匠登錄願 商標)第　號

發明(實用新案 意匠)ノ名稱

右出願ニ關シ昭和　年　月　日附(本書ノ日附ヲ記入スルコト)ノ通知ニ從ヒ別紙ノ通書類(物件)差出候也

昭和　年　月　日

住所

出願人　氏　名　㊞

特許局審査官　氏　名　殿

至急

九年 伍 第一三七五

別紙添付（三通）

陸造總 甲第四〇九號

出願特許ニ関シ意見書再提出ノ件通牒

昭和九年七月九日　陸軍造兵廠總務部長中山徳治

陸軍省副官牛島滿殿

陸普第三八八五號ニ係ル左記出願特許ノ意見書三通送付ス

左記

銑旋屑ヨリ極軟鋼及各種鋼ノ直接製造法

了

陸軍大臣官房 昭和9.7.10

陸軍省 9.7.11 第56號 銃砲課

陸軍造兵廠總務部長

意見書提出ノ件及意見書ニ大臣捺印ノ上特許局ヘ送達相成度

（差出期日七月十五日限リ）

一 昭和九年七月拾參日

官房御中　銃砲課

昭和九年七月十三日

陸普第四三三二號　昭和九年七月十三日

意見書提出ノ件

昭和八年特許願第四二五六號

發明ノ名稱　銑旋屑ヨリ極軟鋼及各種鋼ノ直接製造法

右出願ニ關シ昭和九年六月十二日附ノ通知ニ從ヒ別紙ノ通リ意見書提出候也

昭和九年七月　日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣　林　銑十郎

特許局長官中松眞卿殿

意見書

本願製鋼法ハ銑屑ノミヲ電氣爐ニテ熔解シ鋼ヲ製造スル方法ニシテ普通行ハルル電氣爐ニ依リ精錬ス之レ直接銑ヲ電氣爐ニテ熔解スルモ脱炭甚タ困難ニシテ徒ニ長時間ヲ要シ經濟的ナラサルニ依ルモノナリ然ルニ本願ノ方法ハ僅少時間内ニ銑屑ヲ鋼ニ化スル事實ニ存スルモノニシテ銑屑ノ「**セメント**」團塊作製ニ當リ附加スル混和用用水ノ常ニ「**セメント**」中ニ在リテ殘溜膠狀水及水酸化石灰トナリテ存スルモノナルヲ以テ此等ノ分離ニ依リ發生スル水蒸氣ハ熔解時中隨時地金及團塊ニ組成分タル赤錆層ニ繰返シ反應ヲ及ホシ生錆ヲ助長スルト共ニ更ニ脱酸作用ヲ誘起シ而モ爐内ニ於ケル此等ノ永ク密接ナル接觸狀態ニアル關係上益々反應ヲ旺盛ナラシメ得ル特性ヲ利用セル點ニシテ向山幹夫著最新工業電氣化學第一巻第二三九頁以下ノ第四節ニ記載セラレタルトコロハ鹽基性電氣爐ノ精錬法ノ一般論ニシテ脱燐脱硫ハ本爐ノ特徴ナリ精錬ハ脱炭後進行スルモノニシテ本願ノ主旨トスル處ハ

斯クノ如ク精錬可能ナル程度ニ迄銑ヨリ急速ニ脱炭ヲ行フヲ特徴トスルモノニシテ未タ斯ノ如キ方法ハ文献ニ記載セラレアラサルヲ以テ再審査ヲ希望ス

陸軍大臣 林銑十郎

保存期限	永久	決裁指定	局長委任	決行指定	牛島

政務次官 參與官 回付

決裁 前 後 連帶 課名

受領番號	八年 伍第一三七号 其一
件名	生麝香許可ニ関シ意見書再提出ノ件
起元廳(課)名	陸軍造兵廠

決行(決裁)後 回覽 課名

大臣	委
政務次官	
次官	委
參與官	昭和九年六月二十六日
高級副官	牛島
主務局長	代
主務課長	
書記官	
主務副官 官房 御用掛 主任	
主務課員	
審案 筆記者	

主務局課	
番號	銃五第五七號
受領	昭和九年六月廿六日
提出	昭和九年六月廿八日

大臣官房	
受領	昭和 年 六月廿二日
結了	昭和 年 月 日

連帶	決行後 回覽(決裁)
局長	局長
課長	課長

副官ヨリ陸軍造兵廠総務部長ヘ通牒

客年四月十五日附陸造甲第二二二号ニ依ル左記生銹材料ニ関シ意見書提出中ノ処更ニ別紙通照会アリタルニ付七月八日迄ニ意見書三通提出相成度依命通牒ス

左記

銃鋌用極軟鋼及各種鋼ノ直接製造法

陸普第三八八五號　昭和九年六月廿一日

伍 第一三七號
昭和九年六月十四日 發送

昭和 九 年 六 月 十二 日

特許局審査官 河崎文琳次郎

陸軍大臣 殿

昭和 八 年 特許 願第 四二五六 號

本願ハ左ノ理由ニ依リ之ヲ拒絶スヘキモノト認ム之ニ對シ意見アラハ昭和 九 年 七 月 十五 日限リ意見書ヲ提出スヘシ

理由

出願人ハ意見書ニ於テ銑ノミヲ電氣炉中ニ熔融シテノ鋼ヲ製造スルコトハ一般ニ行ハレ居ル而モ本願ハ[illegible]ニ依リ固メタル銑屑團塊ヲ電氣炉中ニテ熔融シテ不純物ヲ酸化シテ極軟鋼ヲ造リ得ルモノナルヲ以テ之ヲ[illegible]富ヲ希望スト謂リ

[illegible]テ[illegible]先ツ[illegible]

(裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ)

陸軍省 9.6.15 大臣官房

陸軍省 9.6.16 第56號 銃砲課

銃砲

併テ本件[illegible]鋼ノ[illegible]其ノ製[illegible]（[illegible]）[illegible]

鋼ヲ得ルコトハ例ヘハ白山幹夫著最新工業電気化
学第六巻第二三九頁以下ノ第四節ニ記載セラレアル
トコロニシテ其ノ操作ニ就テハ鍛錬法モ亦本発明ノ
ト均等ナルモノト認メラルヽカ故ニ右意見書ハ理由ナク
本発明ハ特許法第四條第二號ニ該当シ同法第一條ノ
新規ナル発明ト認ムルヲ得ス

別紙添付（）五 第一三七 三

八年

陸軍省 9.5.21 大臣官房

陸軍省 9.5.21 銃砲課

至急

[redacted]

別紙添付

陸造總甲第二七七號

出願特許ニ關シ意見書提出ノ件通牒

昭和九年五月十九日　陸軍造兵廠總務部長　中山德治

陸軍省副官　牛島滿殿

陸普第二七八八號ニ係ル左記出願特許ノ意見書送付ス

左記

銑旋屑ヨリ極軟鋼及各種鋼ノ直接製造法

了

陸軍省 9.5.21 大臣官房

陸軍省 9.5.21 第56號 銃砲課

意見書提出ノ件及意見書ニ大臣捺印ノ上特許局ニ送達相成度

（提出期間五月廿四日限リ）

昭和九年五月廿参日

官房御中

銃砲

昭和九年五月廿三日

陸普第三一六〇號

昭和九年五月廿三日

意見書提出ノ件

昭和八年特許願第四二五六號

發明ノ名稱　銑旋屑ヨリ極軟鋼及各種鋼ノ直接製造法

右出願ニ關シ昭和九年四月二十一日附ノ通知ニ従ヒ

別紙ノ通意見書提出候也

昭和九年五月二十三日

東京市麹町区永田町一丁目一番地

陸軍大臣　林　銑十郎

特許局長官　中松眞卿殿

意見書

銑旋屑ニ「セメント」類ヲ混ジテ「ブリツケツト」ヲ造ル事ハ貴翰ノ如ク周知ノ事實ナル事ヲ承認ス然レ共銑ノミヲ電氣爐中ニ熔カシテ鋼ヲ製造スル事ハ一般ニ行ハレズ主トシテ鋼屑ヲ原料トシ時ニ少量ノ銑ヲ混ズル事アルノミナリ

然ルニ此方法ニ於テハ「セメント」ヲ加ヘテ固メタル銑旋屑ノミヨリナル「ブリツケツト」ヲ電氣爐中ニ装入シ「セメント」含有内ノ化合水及銑屑ノ表面ニ附着スル赤錆等ノ猛烈ナル相關的酸化作用ヲ利用シテ銑ノ熔融スル間ニ湯内ノ不純物ヲ酸化シ以テ極メテ簡單ニ極軟鋼ヲ造リ得ル事ヲ特徴トスルモノニシテ世界未ダ此事實ヲ基調

トスル製鋼法アルヲ聞カズ、此方法ニ於ケル酸化作用ノ如何ニ猛烈ナルカハ不純物ノ極メテ多キ銑旋屑ヲ電氣爐中ニ装入通電シテ約三時間ノ後熔解セル儘ノ地金ガ明細書中ニ記載セルガ如ク

炭素 〇．〇四九％

硅素 〇．〇〇六％

燐 〇．〇二六％

硫黄 〇．〇五五％

ノ化學的成分ヲ有スルニヨッテ明瞭ナルベシ

以上ノ理由ニ依ッテ再審査ヲ希望ス

陸軍大臣 林 銑十郎

三一

保存期限 永久
決裁指定
決行指定

政務次官 参與官 回付
決裁 前 後
連帯課名

受領番號 九年 伍第三ロ六號

件名 出願特許ニ關シ拒絶査定謄本送付ノ件

起元廳(課)名 陸軍糧秣本廠

大臣 委

政務次官

次官 委

參與官

局長 主務 代

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛主計

主務課員

審案 筆記者

主務局課		大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
九年 五第一三ロ號	昭和十年四月五日	昭和九年四月十一日	昭和 年四月十三日	昭和 年四月十一日

連帯 局長 課長
決行後回覧(決裁) 局長 課長

陸軍省 10.4.17 時 衣糧課

永久甲 特許

三ロ六

陸普

副官ヨリ陸軍糧秣本廠長ヘ通牒

客年八月二日附糧本第一〇二〇〇號ニ依ル左記出願特許ニ關シ別紙ノ通拒絶査定謄本送付ス

左記

一　巻締ト鑞付トヲ併用セル製罐法

陸普第二〇九九號

昭和十年四月十五日

拒絶査定謄本

昭和九年特許願第九三〇二號

發明ノ名称　巻締ト鑞付トヲ併用セル容罐法

出願人　陸軍大臣

代理人

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ

主文

本願ハ之ヲ拒絶スヘキモノトス

理由

本願ハ昭和十年一月二十五日附ヲ以テ通知シタル理由ニ依リ之ヲ拒絶スヘキモノト認ム

(裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ)

昭和十年四月六日　第三〇ワ號　其三

陸軍省　10.4.-5　第130號　銃砲課

昭和十年三月二十八日　特許局審査官　佐尾　正　㊞

追テ出願人ハ意見書ニ於テ、公知ノモノハ單ニ熔着劑トシテ鉛、錫又ハ半田鑞ノミヲ使用セルニヨリ完全ナル熔着ノ目的ヲ達セズ、然ルニ出願ハ半田鑞ト媒鑞劑トヲ共用スルニヨリ完全ナル鑞付ノ目的ヲ達成シ得ルニヨリ両者ハ全ク相違ス、出願ハ特許セラルベキモノナリト縷々主張ス。然レドモ之前通知引用例ハモノガ鑞付ニ際シ媒鑞劑ヲ使用セザルトスルモ、鉛罐ニ際シ使用セラルル鑞板ノ清淨度ヲ以テ鑞セバ、單ニ加熱熔融セシノミニテモ不充分乍ラ多少ノ鑞付ノ目的ハ達シオラルルモノト認ムルヲ妥当ト信ズ、而シテ、該引用例ニ於テ半田鑞等ヲ熔融セシムル目的ヨリシテ、鑞付ガ完全ニ施行セラレオルコトノ望マシキコトハ当業者ノ容易ニ想到シ得ルトコロト認ムルニヨリ、出願ノ如ク媒鑞劑ノ使用ヲ想起スルモ又容易ナルベシ、尚ホ鑞付方法トシテ出願ノ如ク半田鑞ト媒鑞劑トヲ塗布シテ施行スルガ

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和　年　月　日　特許局屬

昭和十年四月一日

如キハ普通ノコトナルニヨリ此方法ヲ本願ノ如キ場合ニ応用スルガ如キモ当業者ノ容易ニ実施シ得ル所ト認メ要スルニ本願ハ畢竟ニ通知セル引用例及ビ従来公知ナル事項ヨリ当業者ガ発明思想ヲ要セズシテ実施シ得ラルベキ程度ノモノト認メラルルニヨリ本願意見書ノ主張ハ之ヲ採用スルコトヲ得ズシテ主文ノ如ク査定ス。

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス
特許局屬 高橋米太郎

特許局

コトハ当業者ノ容易ニ想到シ得ルコトト認メラルルニヨリ本願ノ如ク螺鐵割ノ使用ヲ想起スルモ又容易ナルベシ。尚ホ鐵付方法トシテ本願ノ如ク半田鐵ト螺鐵割トヲ塗布シテ施行スルガ

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス
昭和　年　月　日　特許局屬

伍第三〇六二

糧本第貳四九號

「巻締ト鑞付トヲ併用セル製罐法」ニ關シ意見書提出ノ件通牒

昭和十年二月十六日

陸軍糧秣本廠長石川半三郎

陸軍省副官牛島満殿

二月八日附陸普第五九四號通牒ニ係ル首題ノ件ニ關シ意見書別紙三通提出ス

陸軍省 10.2.19 第130號 銃砲課

大臣官房 10.2.19

意見書提出ノ件及意見書ニ大臣捺印ノ上特許局ニ送達相成度

（審査期間ハ二月二十八日限リ）

昭和拾年貳月廿貳日

官房御中

銃砲課

昭和十年二月廿三日

陸普第八七〇號 昭和十年二月廿三日

意見書提出之件

昭和九年特許願第九三一二號

發明ノ名稱 巻締ト鐵付トヲ併用セル製罐法

右出願ニ關シ昭和十年一月二十五日附ノ通知ニ從ヒ別紙ノ通リ意見書提出候也

昭和十年 月 日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

出願人 陸軍大臣 林 銑十郎

特許局審査官 小山甲三殿

意見書

意見申立ノ要旨

昭和九年特許願第九三一二號ハ左記ノ理由ニ依リ特許法第一條ニ該當スルモノト御決定相成度

理由

昭和十年一月二十五日付廉書ニヨレハ本願ハ本願出願前帝國内ニ頒布セラレタル昭和六年實用新案出願公告第四〇九七號説明書ニ容易ニ實施サレ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノナルヲ以テ特許法第四條第二號ノ規定ニヨリ同法第一條ノ新規ナル工業的發明ト認メル事ヲ得サルモノハ旣定セラルル旨ナルモ刊行物ノ説明書ト本願トノ間ニハ其ノ機能及ヒ效果ニ於テ甚タ多大ノ相違

アリ即チ前者ノ方法ハ鑵ノ卷締部ニ錻錫又ハ半田鑞ヨリ成ル無端ニシテ環狀ヲ成セル條鈑ヲ嵌入セシメタル後卷締ヲナシ次ニ加熱ヨリ條鈑ヲ溶融セシメ固化密着セシムル方法ニアルニ對シ本願ノ方法ハ卷締部テ內部ニ豫メ半田鑞ト媒鎔劑トヲ均等ニ塗布シ置キ卷締操作中又ハ卷締後加熱ニヨリ半田鑞ヲ熔融セシメ以テ蓋底ト胴部トヲ熔着セシムル方法ニシテ一見兩者酷似セル點アルモ苟モ製鑵ノ事業ニ從事セルモノハ直チニソノ機能並ニ効果ノ點ニ於テ大ナル相違アリ本願ノ全然新規ナル考案ニシテ有効ナルモノナル事ヲ首肯シ得ベシ。

他者ノ發明ヲ非難スルハ甚タ心苦シキ事ナルモ本願ノ

方法ヲ説明スル必要上少シク右ノ實用新案公告第四〇九七號ノ缺點ニ就テ述ブレハ第一ニ鉛錫又ハ半田鑞ト鐵葉鈑トノ間ニハソノ伸延性ニ多大ノ相違アリ。故ニ鑵ノ卷締ニ際シ卷締部ニ挾入セラレタル鉛錫又ハ半田鑞ハ鐵葉鈑ニ比シ著シク伸延性ニ富ムヲ以テ卷締ノ最後ノ點ニ集リ來リ此ニ瘤ヲ生シ卷締ヲ不完全ニスルノミナラス甚タシキハ塞閉ヲ不完全ニス。加之卷締部ニ一々鉛、錫又ハ半田鑞ノ條鈑ヲ挾入スル事ハ甚タシキ煩勞ニシテ到底能率的ノ製造ニ適セス。

然ルニ本願ノ方法ハ豫メ鑵胴ハ「フレンヂ」上面又ハ蓋底ノ周溝内ニ半田鑞ヲ熔融塗布シ又ハ半田鑞ノ粉末ニテ造リタル半田鑞泥ヲ塗布シ置キ之ヲ以テ卷締ニ際シ半田

鐵ハ弛ミヲ生スルコトナク平等ナル巻締ヲ行フコトヲ得。更ニ本願ト實用新案出願公告第四〇九七號ノ方法トノ間ニ重大ナル相異ア述ブ所ハ後者ハ單ニ溶着劑トシテ鉛錫又ハ半田鐵ノミヲ使用スルニ對シ本願ノ方法ハ適度ノ溶融點ヲ有スル半田鐵ト共ニ之ニ適當ナル媒鐵劑ヲ使用スルヲ必要條件トス。凡ソ鐵付ヲナスニ媒鐵劑ノ必要ナルハ多言ヲ要セサル處ニシテ之ヲ用ヒサル鐵付ハ殆ント溶着ノ目的ヲ達セサルノミナラス假令幸ニシテ溶着スル場合ト雖モ其ノ附着力ハ頗ル微弱ナルモノナリ。

以上ノ二件ハ右實用新案公告ノ根本的缺點ニシテ之ニヨリテ完全ナル巻締密閉ヲ企圖スルハ寧ロ無謀ニ等シ

ク恐ラク殆ント無價値ニ等シキモノナルヘシ。
然ルニ本願ノ方法ハ多年製鑵上ノ經驗ニ基キ研究考案サレタルモノニシテ能力、機能竝ニ効力等ノ點ニ於テ間然スル處ナク極メテ確實有効ナル發明ニ屬スル事ヲ信スルモノナリ。
巻締部ニ類似ノ金屬ヲ使用シ巻締後之ヲ熔着スル着眼ニ於テハ本願ト實用新案公告第四〇九七號ト共通セルヲ見ル。然ルニ前者ノ方法ハ完全ナル熔着ヲ目的トシ、後者ハソノ熔着力殆ント無力ナル點ニ於テ寧ロ彼ノ鐵工業等ニ於テ鉛又ハ「ホワイトメタル」ヲ接合部ノ「パッキング」トシテ使用スル場合ニ近キモノト見ルヲ至當トスヘシ。

陸軍大臣 林銑十郎

保存期限	決裁指定	決行指定
永久	要決裁	牛島

受領番號	件名	起元廳(課)名	政務次官 參與官 回付	決裁前 連帶課名	決行(決裁)後 回覽課名
九年伍第三〇六號其八	意見書提出ノ件	陸軍糧秣本廠		〃	衣

主務局課 番號	主務局課 受領	主務局課 提出	大臣官房 受領	大臣官房 結了
九年五[illegible]	昭和十年一月二九日	昭和十年二月八日	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日

大臣	委
政務次官	
次官	委
主務局長	
參與官	
高級副官	牛島
主務課長	
書記官	
主務副官 官房 御用掛 主計	
主務課員	
審案筆記者	

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

陸普

副官ヨリ陸軍糧秣本廠長ヘ通牒

九年八月二日附糧本第一二〇〇號ニ依ル左記出願特許ニ関シ別紙寫ノ通移牒アリタルニ付二月十八日迄ニ意見書三通提出相成度依命通牒ス

左記

巻締ト鑵付トヲ併用セル製罐法

陸普第五九四號

昭和十年二月八日

昭和十年一月二十五日

特許局審査官 十山甲三

陸軍大臣 殿

昭和九年特許願第九三一二號

本願ハ左ノ理由ニ依リ之ヲ拒絶スベキモノト認ム之ニ對シ意見アラハ昭和十年二月二十八日限リ意見書ヲ提出スヘシ

理由

本願ノ發明ハ其ノ出願前帝國內ニ頒布セラレタル左記ノ刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノナルヲ以テ特許法第四條第二號ノ規定ニ依リ同法第一條ノ新規ナル工業的發明ト認ムルコトヲ得ス

記

（裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ）

昭和十年一月二十八日發送

陸軍省 10.1.29 第130號 銃砲課

陸軍省 10.1.29 第241號 銃砲課

昭和六年實用新案出願公告第四〇九七號

説明書

願書番號通知

昭和九年特許願第　9312　號

昭和九年八月二十七日差出ニ係ル特許願書ニ附シタル番號右ノ通ニ付之ヲ通知ス

追テ以後本件ニ關シ書類、雛形、見本等ヲ差出ストキハ必ス之ニ前記願書番號(昭和　年特許願第　號)及發明ノ名稱ヲ記載シ印形ハ願書ニ押捺シタルモノヲ使用

昭和九年九月參日

昭和九年　月　日

特許局

伍第三〇六號

陸軍省 9.9.6 大臣官房

陸軍省 9.9.-7 第130號 銃砲課

閲

糧本第一、二〇〇號

陸受第二五〇號

特許出願ノ件上申

昭和九年八月二日

陸軍糧秣本廠長石川半三郎

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

左記發明ニ對シ特許出願セラレ度別紙特許願讓渡證並ニ明細書各四通宛添付上申ス

左記

一、發明ノ名稱 卷締ト螺付トヲ併用セル製罐法

一、發明者 囑託 向井重雄

本文申越ノ通特許願及明細書（圖面）ニ大臣捺印ノ上讓渡證ト共ニ特許局ヘ送達セラレ度

一昭和九年八月廿五日 銃砲課

官房御中

八月廿七日

衣糧課
陸軍省 9.8.4 大臣官房

陸軍省 9.8.6 銃砲課 130

陸軍糧秣本廠長印

特許願

一、發明ノ名稱　巻締ト鑞付トヲ併用セル製罐法

一、發明者　東京市澁谷區金王町四十番地

向井重雄

右出願ニ関シ別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受度候也

昭和九年　月　日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣　林銑十郎

特許局長官　中松眞卿殿

一、讓渡證　壹通

添附書類目錄

陸普第五一〇六號　昭和九年八月廿七日

添附書類目録

一、明細書　貳通

一、讓渡證　壹通

譲渡證

一、發明ノ名稱　巻締ト鑞付トヲ併用セル製罐法

右私ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ國ニ譲渡致候也

昭和九年八月二日

東京市澁谷區金王町四十番地

向井重雄 (向井)

陸軍大臣　林銑十郎殿

二

明細書

一、發明ノ名稱　卷締ト鑞付トヲ併用セル製罐法

二、發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ罐詰用鐵葉罐ノ製造ニ於ケル所謂卷締罐ノ製造方式中蓋底ト胴部トノ接合部卽チ卷締部ノ內部ニ豫メ半田鑞ト媒鑞劑トヲ均等ニ塗布シオキ卷締操作中又ハ卷締後加熱ニヨリテ卷締部ニ卷込マレアル半田鑞ヲ熔融セシメ以テ蓋底ト胴部トヲ熔着セシムル事ヲ特徴トスル卷締ト鑞付トヲ併用セル製罐法ニ係リソノ目的トスル處ハ能率的ニシテ堅牢ナル鐵葉罐ヲ製造スルニアリ。

三、發明ノ詳細ナル說明

現在行ハルル巻締罐ハ巻締部ニ「ゴム」ヲ主體トセル「パッキング」ヲ使用シ頗ル能率的ニシテ且進歩セル製罐法ニヨレルモノナルモ惜ムラクハ之ヲ使用スル「ゴムパッキング」ハ理化學的抵抗性ニ乏シク罐詰内容品殊ニソノ脂肪分ノ爲ニ溶解セラレ又巻締機ノ些少ノ不具合等ニヨリ破損シ易ク「パッキング」トシテノ効力ヲ減殺セラルル虞アリ又例ヒ完全ニ製造セラレタルモノモ罐詰製造上ニ必要ナル加熱並ニ冷却ノ結果トシテ巻締部ノ膨脹收縮又ハ貯藏中ニ於ケル寒暑ノ影響ニヨル收縮膨脹ノ爲ニ巻締部ニ理論上ノ緩ミヲ生シ罐詰ノ耐久性ヲ減殺スル傾向アリ運搬中ノ衝動ノ爲ニ受クル罐詰巻締部ノ損傷亦頗ル大ナル事ハ彼ノ

參字削除

數年間ノ貯藏ヲ必要トスル軍用罐詰ニ於テ一度輸送ヲ受ケタルモノト然ラサルモノトノ間ニ變敗率ニ多大ノ相違アル實例ニ徴シ巻締部ニ根本的ノ弱點アルコトハ疑ノ餘地ナキ處ナリ。

斯ノ如キハ安全確實ヲ必要トスル罐詰ノ使命ニ鑑ミ寔ニ遺憾ニ堪ヘサル處ナリ。

右ノ缺陷ハ巻締部ヲ更ニ外部ヨリ鑞付トスル事ニヨリテ完全ニ醫除シ得ルモ一方ニ於テ之カ爲著シク製造能力ヲ低下シ生産費ヲ高ムルノミナラス外觀ヲ損スル憾アルニヨリ本發明ハ之等ノ缺點ナク巻締部ノ内部鑞付ニヨリテ罐ノ確實性ヲ附與スルト共ニ製造能力ニ大ナル低下ヲ來タサス殆ント從來ノ巻締法ニ

劣ラサル能力ヲ示シ且甚シク生産費ノ増加ヲ來タサス。

巻締内部ニ於ケル半田鑞ノ熔着ヲ容易ナラシムル爲ニハ普通ノ半田鑞ノ代リニ低温熔融ナル半田鑞ヲ用フルヲ可トスルモ罐詰ノ普通殺菌温度卽チ攝氏百十數度ヲ限度トシ之ヨリ低温ニテ熔融セサル處方ノモノナルヲ要ス然ラサレハ殺菌加熱ノ際ニ半田鑞熔融シテ氣密ヲ失ナフ結果ヲ招致スヘシ卽チ茲ニ用フル半田鑞トシテハ攝氏百二十度位ノ熔融點ヲ有スルモノヲ理想トス巻締部ハ加熱テ充分ナラシムルニ於テハ更ニ高温熔融ノ半田鑞ヲモ使用スルヲ得ヘシ。

本法ニ於テ巻締部ノ加熱ハ巻締ノ際ニ發生スル摩擦

熱ヲ利用スル外「巻締ロール」及ビ「チヤツク」或ハソノ一方ヲ加熱シ以テ傳導熱ニヨリ又ハ巻締中若クハ巻締後ニ於テ巻締部ヲ加熱スルコトニヨリテ其ノ目的ヲ達シ得ベシ。

實施例一

錫四分鉛二分及ビ蒼鉛一分ヨリ成ル半田鑛ノ微粉百分ニ對シ塩化亜鉛及松脂ノ等量混合粉末一分ヲ加ヘ「アルコール」ニテ捏リ適度ノ濃度ナル半田鑛泥ヲ製リ之ヲ普通巻締罐ノ場合ト同様ノ方法ニヨリ蓋底ノ周溝ニ塗布シ乾燥ノ上之ヲ使用ス。

蓋底ヲ罐胴ニ巻締スルニハ普通法ト殆ド同様ノ操作ニテ巻締部ニ於ケル摩擦熱半田鑛ガ熔着ス

ルニ不足スルヲ例トスルカ故ニ巻締機ノ「ヤ字ク」及
ヒ「ロト」ヲ加熱シ得ル機構ニ逐次ノ傳導熱ニヨリ半
田鑞ヲ熔着セシム或ハ別ニ巻締部ヲ加熱スル如ク装
置スルモ可ナリ。

實罐ハ巻締ニ對シテモ全ク同様ノ操作ニヨル。

實施例三

罐胴ハ「フランダ」上面又ハ蓋底周溝内ニ前記配合ノ半
田鑞ヲ熔融塗布シテ均等ナル薄層ヲ作リ更ラニ蓋底
ノ周溝ニ前記ノ配合ニヨレル媒鑞剤即チ塩化亜鉛ト
松脂ト混合物ヲ「アルコール」ニテ捏リ流動性ヲ與ヘ
タルモノヲ塗布シ之ヲ乾燥セシメ以下巻締及ヒ熔着
ノ操作ハ實施例十同ジ。

四、特許請求ノ範圍

本文所載ノ目的ヲ以テ本文ニ詳記セルカ如ク罐詰用鐵葉罐ノ製造ニ於ケル所謂巻締罐ノ製造方式中蓋底ト胴部トノ接合部卽チ巻締部ノ内部ニ豫メ半田鑞ト媒鑞劑トヲ均等ニ塗布シオキ巻締操作中又ハ巻締後加熱ニヨリテ巻締部ニ巻込マレアル半田鑞ヲ熔融セシメ以テ蓋底ト胴部トヲ熔着セシムルコトヲ特徴トスル巻締ト鑞付トヲ併用セル製罐法。

陸軍大臣 林 銑十郎

七

保存期限 永久

決裁指定

決行指定

一 四

受領番號 参第六二二號

件名 實用新案異議申立ノ件

起元廳（課）名 陸軍技術本部

政務次官 參與官 回付

決裁前 連帶課名

決行（決裁）後 回覧課名

永久甲

大臣

政務次官

次官

參與官

主務局長

主務課長

高級副官

書記官

主務課員

主務副官 官房御用掛 主計

起案 筆記者

主務局課

番號 銃三第二六〇

受領 昭和九年七月二十日

提出 昭和九年七月廿八日

大臣官房

受領 昭和 年 月 日

結了 昭和 年 月 日

連帶

局長

課長

決行（決裁）後回覧

局長

課長

陸軍技術本部 9.7.21 第127號 器材課

陸普

大臣ヨリ特許局長官ヘ通牒

左記出願ハ特許法第七十四條ニ依リ異議申立書二通相添ヘ此段及異議申立候也

左記

昭和九年七月五日發行實用新案公報第千四百號

一、實用新案出願公告番號 昭和九年第九一五二號

一、實用新案ノ名稱 鐙戸式示號布板

一、出願人 加賀久四郎

陸普第四六五一號 昭和九年七月廿日

陸軍省受領 參第六二二號 9.7.20 大臣官房

陸軍省受領 密大日記 六二二號
陸軍省 9.7.20 大臣官房
軍省 9.7.20 第260 銃砲課

陸技本甲第三九五號

實用新案登錄異議申立ニ關スル件上申

昭和九年七月十九日

陸軍技術本部長　緒　方　勝　一

陸軍大臣　林　銑　十　郎　殿

昭和九年七月五日實用新案公報第一四〇〇號所載ノ登錄出願公告第九一五二號「鎧戸式示號布板」ハ公知ノ事實ナルヲ以テ異議申立ヲ要スルモノト認メラルルニ付異議申立書四通進達セシニ付異議申立相成度

陸軍

實用新案登錄異議申立書

一、實用新案願書番號　昭和九年第一〇三九四號

一、實用新案ノ名稱　鎧戸式示號布板

一、出願人　加賀久四郎

一、出願公告年月日　昭和九年七月五日

前記出願ハ登錄スヘカラサルモノト被存候ニ付理由ヲ具シテ此段及登錄異議申立候也

異議申立ノ理由

一、實用新案登錄請求ノ範圍タル鎧戸式布板ヲ取外シ自在ニ支持スヘキ支持棒ヲ上杆及下杆ニ分チ該上杆及下杆ヲ軸著突板ヲ有スル金屬環竝軸著突板ヲ有スル金屬環ニヨリ二ツ折ナシ得ル如ク聯結ナスコトハ昭和八年十一月十五日附陸普第七〇五五號ヲ以テ制定シタル陸軍制式兵器ノ字號布板ト其ノ構造及作用同一ニシテ何等新規ノ考案トナスヘキモノニアラス（別紙陸軍兵器制式図寫參照）

昭和九年七月　日

異議申立人　陸軍大臣　林銑十郎

特許局長官　中松眞卿　殿

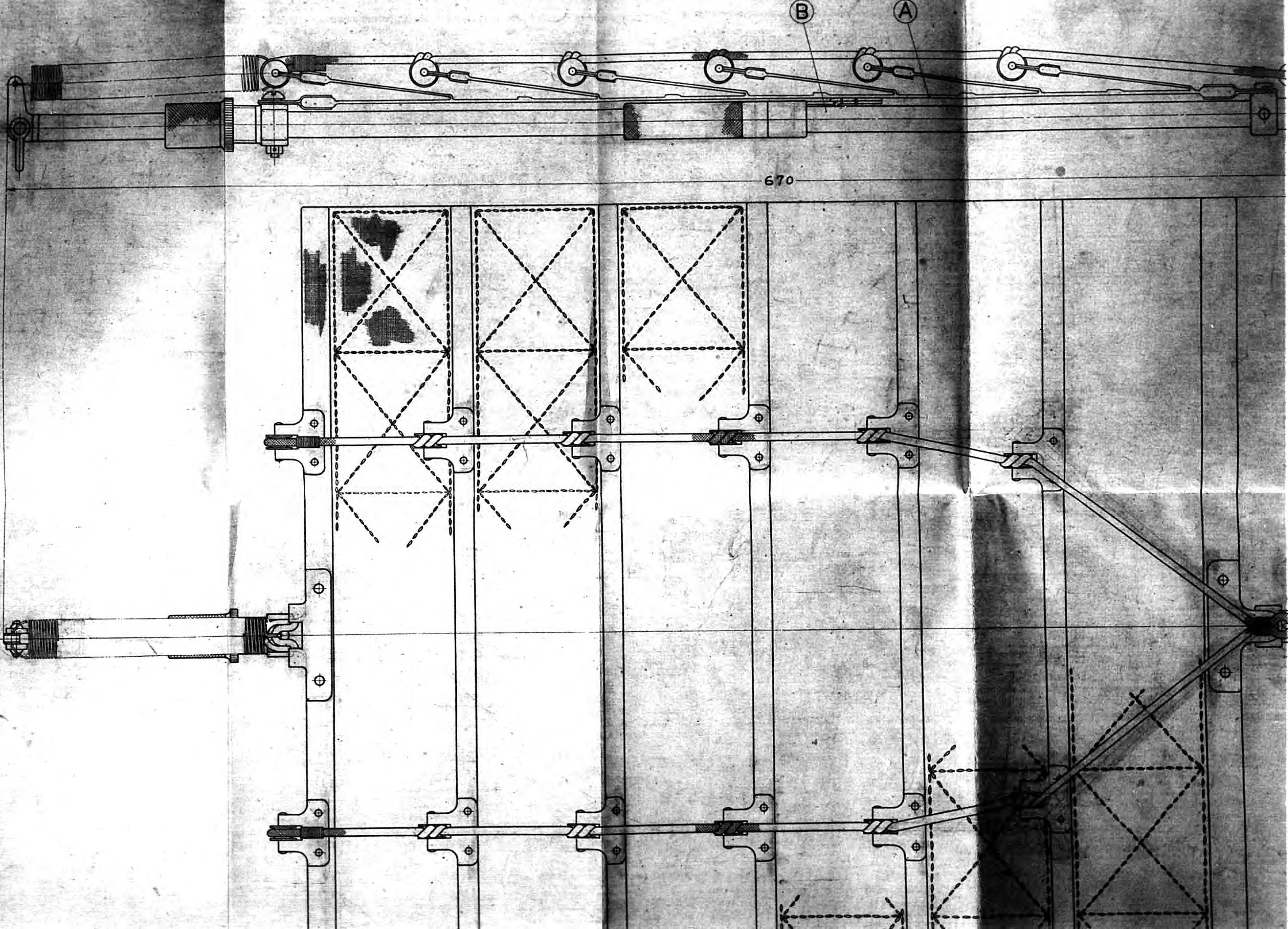
昭和八年八月二十九日
甲第四六七號上申

陸軍制式兵器図（器材）

通信器材

字號布板

全体

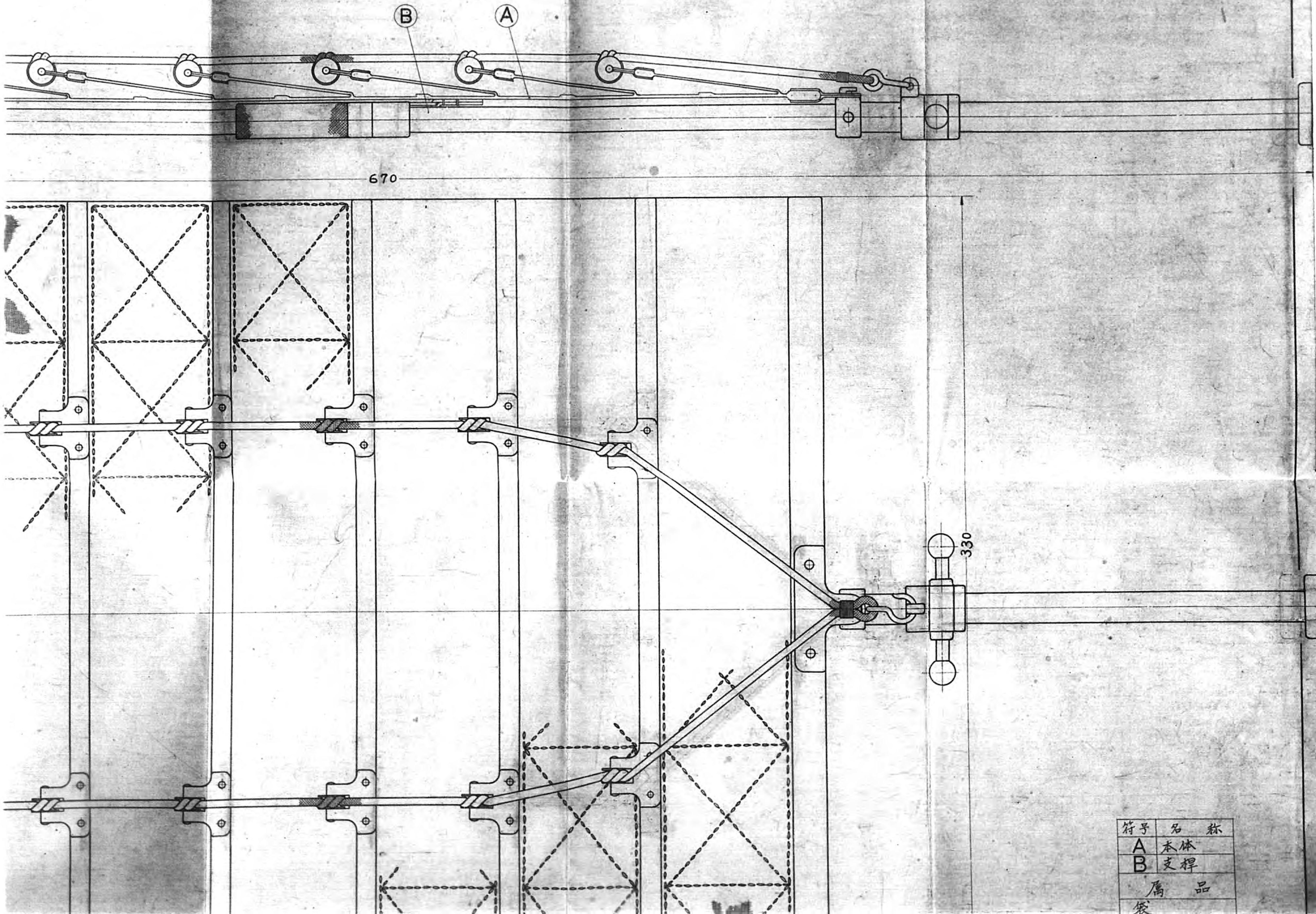


陸

字號布板 器

全体

重量 950g (属品共)



符号	名称
A	本体
B	支桿
属品	
袋	

陸軍技術本部印刷

符号	名　称
A	本体
B	支桿
属　品	
袋	

(十)

2961-B D

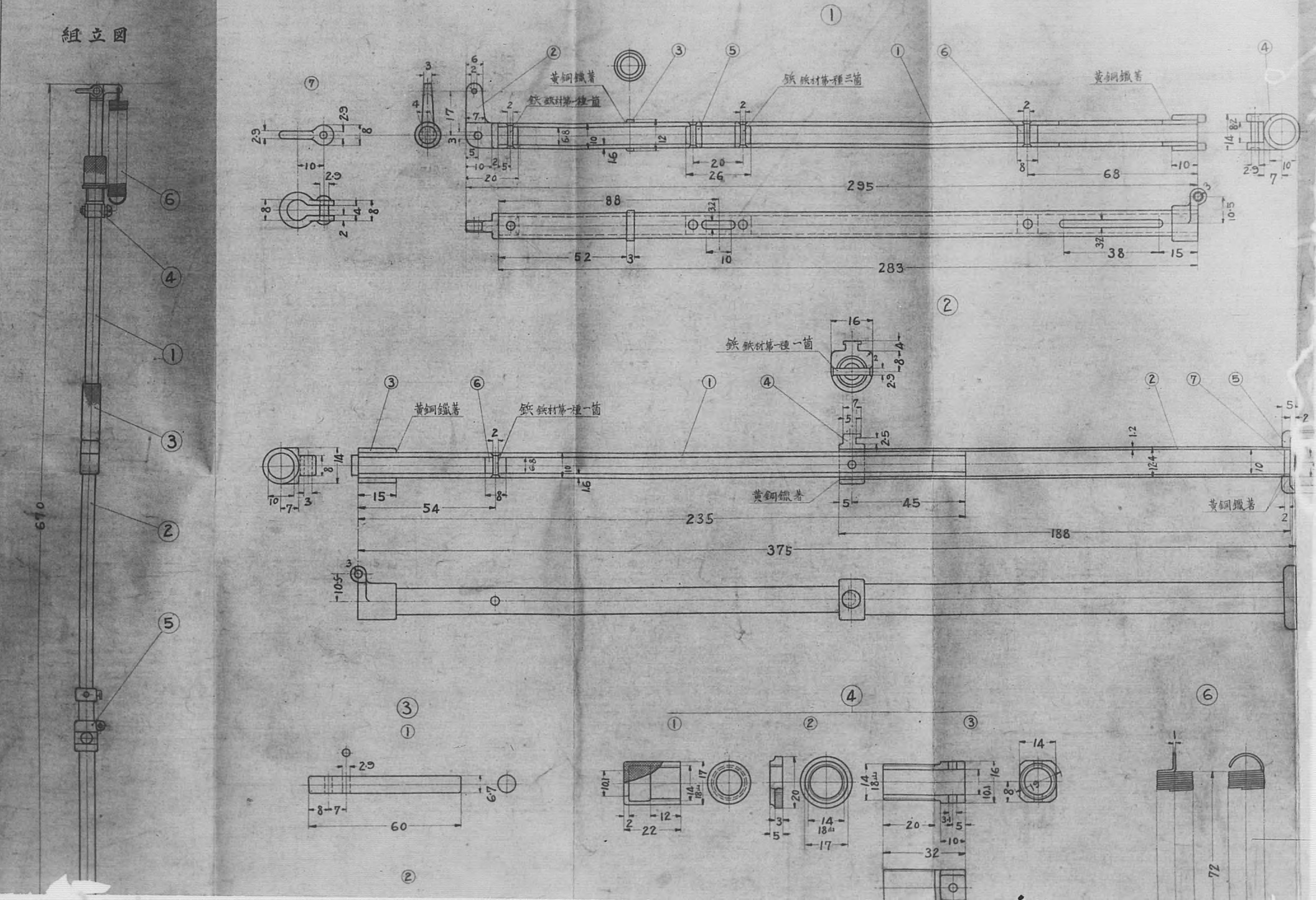
(505)

陸軍兵器製作図（器材）

通信器材

字號布板

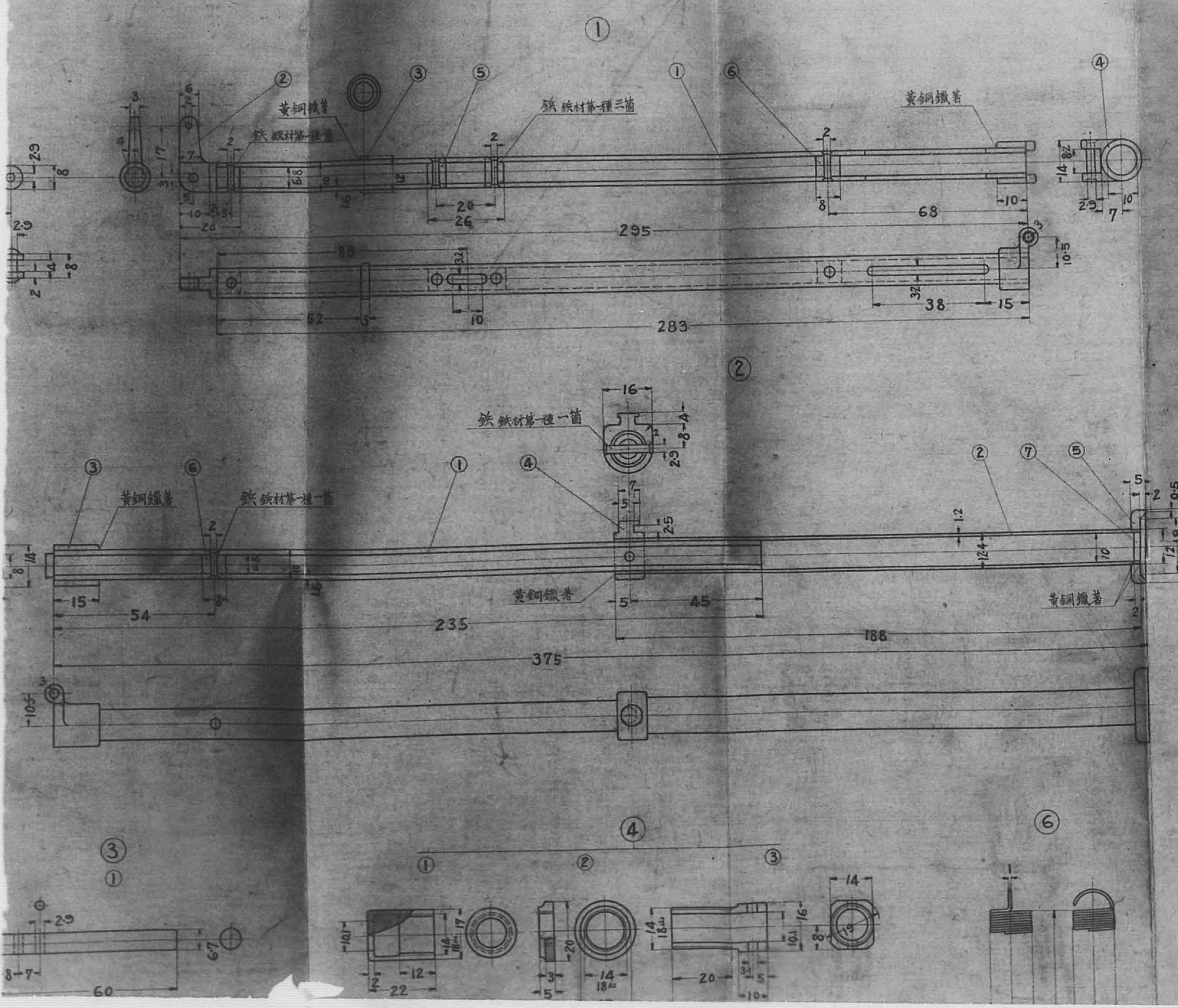
Ⓑ支桿

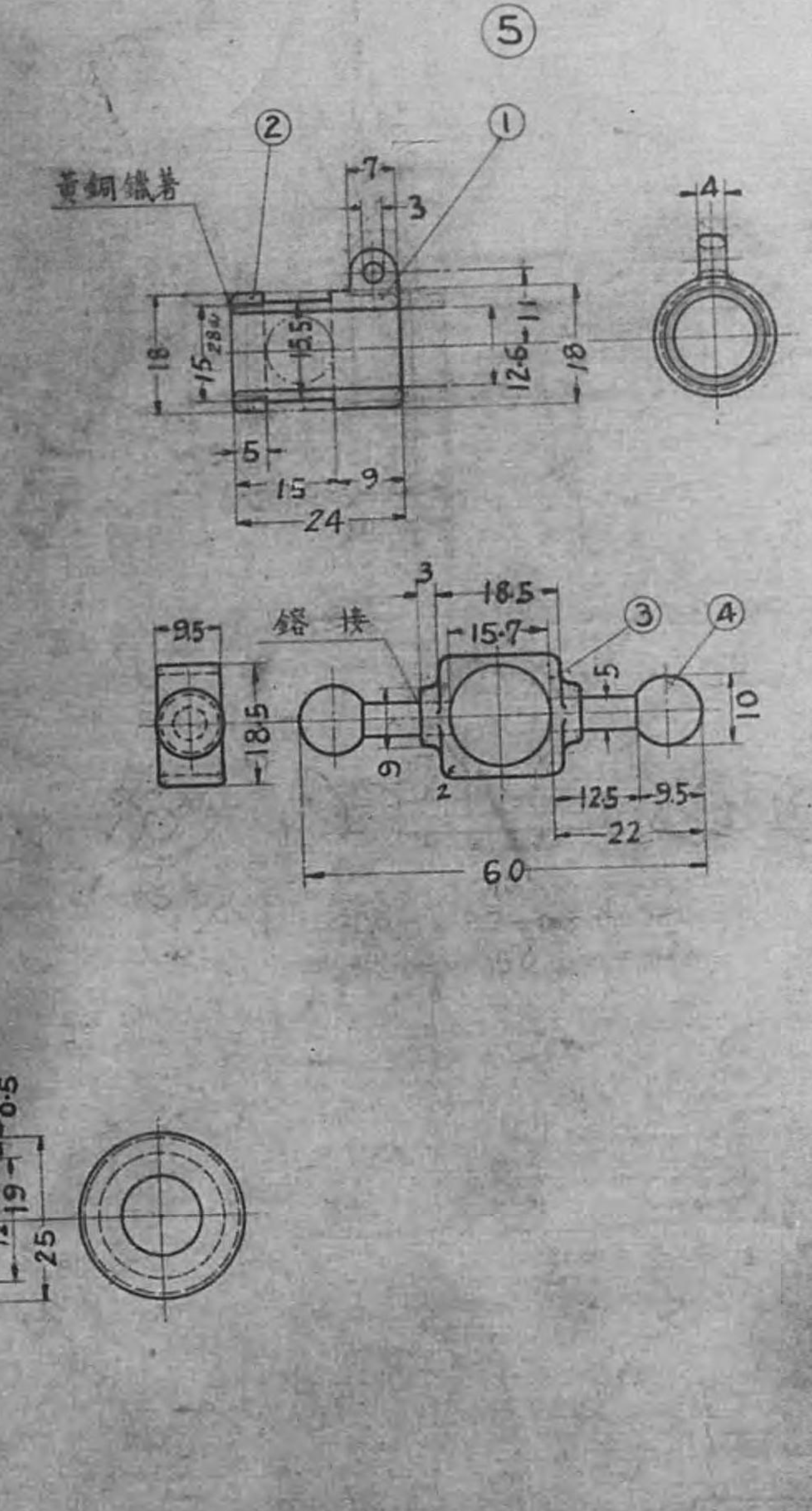


器

字號布板

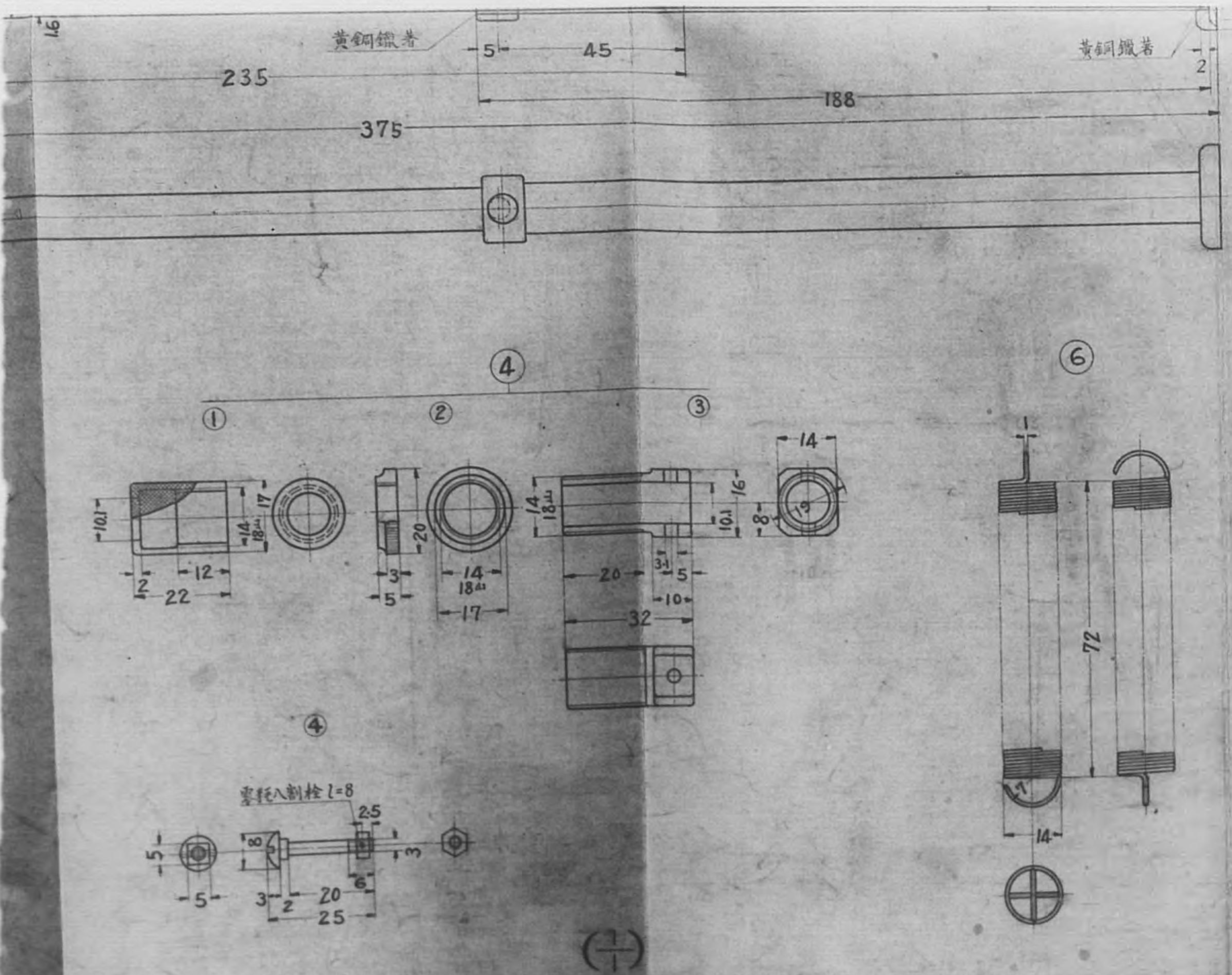
Ⓑ 支桿





番号及名称		品質	員数	摘要
1 上部桿	1 体	一般用継目無鋼管第二種	1	JES=依ル
	2 吊板	棒鋼第三種	1	
	3 止鐶	〃	1	
	4 繋鐶	〃	1	軸棒鋼第二種共
	5 塞栓甲	黄銅	1	
	6 〃 乙	〃	1	
	7 吊鐶	棒鋼第三種	1	軸棒鋼第二種共
2 下部桿	1 桿 甲	一般用継目無鋼管第二種	1	JES=依ル
	2 〃 乙	継目無黄銅管	1	〃
	3 繋鐶	棒鋼第三種	1	
	4 鉤鐶	〃	1	
	5 鐏	〃	1	
	6 塞栓甲	黄銅	1	
	7 〃 乙	〃	1	

陸軍技術本部印刷
(1/2)
(1/1)



番号及名称		品質	員数	摘要
1 上部桿	1 体	一般用継目無鋼管第二種	1	JES=依ル
	2 吊板	棒鋼第三種	1	
	3 止鐶	〃	1	
	4 繋鐶	〃	1	軸棒鋼第二種共
	5 塞栓甲	黄銅	1	
	6 〃 乙	〃	1	
	7 吊鐶	棒鋼第三種	1	軸棒鋼第二種共
2 下部桿	1 桿甲	一般用継目無鋼管第二種	1	JES=依ル
	2 〃 乙	継目無黄銅管	1	〃
	3 繋鐶	棒鋼第三種	1	
	4 鉤鐶	〃	1	
	5 鐏	〃	1	
	6 塞栓甲	黄銅	1	
	7 〃 乙	〃	1	
3 繋栓	1 体	〃	1	
	2 摺動筒	棒鋼第三種	1	
4 緊吊螺	1 調整螺	〃	1	
	2 緊定螺	〃	1	
	3 吊桿	黄銅	1	
	4 吊軸	棒鋼第三種	1	「ナット」、割栓共
5 引手	1 導鐶	黄銅	1	
	2 駐鐶	〃	1	
	3 支鐶	棒鋼第三種	1	
	4 把手	〃	2	
6 吊ばね		発条鋼第五号	1	

保存期限	永久	決裁指定	局長決裁	決行指定	出島

受領番號：参第六二二號 三

件名：實用新案登錄異議申立ニ關シ登錄異議ノ決定謄本送付ノ件

起元廳(課)名：陸軍技術本部

政務次官 參與官 同付

決裁 前 後

連帯課名

同覧(決裁)後 課名

大臣

次官

政務次官

主務局長

高級副官

參與官

主務課長

主務副官

官房御用掛主計

書記官

主務課員

筆記者

	主務局課	大臣官房
番號	銃三第二六〇號	
受領	昭和十年三月十三日	
提出	昭和十年三月十三日	
受領	昭和年三月十五日	
結了	昭和年月日	

連帯 局長 課長

決行後同覧(決裁) 局長 課長

陸軍省 10.3.20 案第191號 器材課

陸軍省 10.3.19 大臣官房

陸普

副官ヨリ陸軍技術本部長ヘ通牒

客年七月十九日附陸技本甲第三九五號ニ依ル左記出願實用新案登錄ニ關シ異議申立中ノ處別紙寫ノ通理由アルモノト決定セラレタルニ付承知相成度依命通牒ス

左記

陸普第一三七七號　昭和十年三月十八日

昭和九年七月五日發行實用新案公報第千四百號

一、實用新案ノ名稱　鐙戸式示號布板

一、出願人　加賀久四郎

昭和十年三月十三日

陸軍大臣

登録異議ノ決定

昭和九年實用新案登録願第一〇三九四號

實用新案ノ名稱　鎧戸式示號布板

出願人　加賀久四郎

代理人　阪本安房外二名

登録異議申立人　陸軍大臣

代理人

参加人

代理人

右出願ノ登録異議ノ申立ニ付決定スルコト左ノ如シ

主文

本件登録異議ノ申立ハ理由アルモノトス

證據調ノ費用ハ　ノ負擔トス但シ参

加ニ因リテ生シタル費用ハ参加人ノ負擔トス

陸軍省 3.13 銃砲課

[illegible]

理由

異議申立人ハ本願ハ登録スベカラザルモノナリト申立テ其ノ理由ノ要領トシテ本願ハ其ノ出願前公知ナル字号布板ト同一ナリト主張シ之ガ公知ノ事実ヲ立証スル為メ~~陸普第七〇五五号~~陸軍制式兵器図寫並ニ本陸軍歩兵學校長香月清司及日本電波株式會社取締役社長後藤兼三ノ証明書ヲ提出セリ

之ニ対シ出願人ハ本件異議ノ申立ハ理由ナキモノトストノ決定ヲ求ムト答辯シ其ノ理由ノ要領トシテ本願ハ引例ト相違シ新規ノ考案ナリト謂ヘリ

仍テ審査スルニ本願ハ鐙片式布板ヲ着脱自在ニ支持スベキ支持棒ヲ上桿及下桿ニ分ケ之等両桿ニ夫々軸着突板ヲ有スル金属環ヲ設ケテ折疊ミ得ル如ク聯結シタル鐙片式示号布板ノ構造ヲ要旨トスルコト其ノ図面並ニ説明書ノ記載ニ徴シテ明ラカナリ

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和　年　月　日　特許局屬

然ルニ右ト同一ノ構造ヲ備ヘタル字号布板ガ本出願前公知ナル
コトハ前記陸普第廿五号陸軍制式兵器図写及陸軍歩
兵学校長香月清司ノ証明書ニ依リ認ムルニ足ルヲ以テ
本願ハ実用新案法第三條第一号ニ該当シ全法第一條ニ該
当セザルモノト認ム

仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十年三月八日

特許局審査官　明石喜兵衛　㊞

昭和拾年参月拾壹日

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認ム

特許局屬　高橋米太郎

特許局

別紙
參第六二二

陸技本甲第六六六號

實用新案登録異議申立ニ關シ書類提出ノ件

昭和九年十二月四日　陸軍技術本部長　岸本綾夫

陸軍大臣　林銑十郎殿

十一月十六日附陸普第六九二〇號通牒ニ依ル昭和九年七月五日發行實用新案公報第一四〇〇號所載ノ登録願第一〇三九四號布板（字號布板）ハ本出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ且公然用ヰラレタルモノナルコトヲ立證スヘキ左記書類各四通提出ス

追テ本字號布板カ昭和八年十一月十五日附陸普第七〇五五號ヲ以テ陸軍制式トシテ制定セラレ一般部隊ニ公用シツツアルコトハ實用新案異議申立書ニ記載セル通ナリ

左記

一、陸軍歩兵學校ノ字號布板使用證明書

二、陸軍技術本部ノ試作竝陸軍兵器本廠ノ調辨ニ依ル製作者ノ製作書

陸軍省　9.12.5　第260號　銃砲課

陸軍省　昭和9.12.5　前午　大臣官房

書類差出ノ件（正副）大臣ヨリ特許局ニ送達相成度

官房ニ御中

昭和九年十二月十日

銃砲課

昭和九年十二月七日

控

陸普第七三四二號　昭和九年十二月七日

書類差出ノ件

昭和九年實用新案登録願第一〇三九四號
實用新案ノ名稱　鎧戸式示號布板
右出願ニ関シ昭和九年十一月八日附ノ通知ニ從ヒ
別紙ノ通書面正副二通差出候也

昭和九年十二月七日

東京市麹町区永田町一丁目一番地

陸軍大臣　林　銑十郎

特許局審査官　明石喜兵衛殿

控

（寫）

字號布板使用證明書

一、使用ノ目的
歩兵用通信器材トシテ制式ニ採用スルノ可否ヲ判定スル爲實用試驗ノ委託ヲ受ケタルニ依ル

二、供試ヲ受ケタル器材ノ數　字號布板　九箇

三、試驗期間　自昭和八年三月下旬
至同年五月中旬

四、試驗部隊　陸軍歩兵學校教導隊

五、試驗場所　陸軍歩兵學校校内及野外

六、試驗後ノ狀態　昭和八年六月二十六日現制字號布板タル改修品ニ同意セリ

七、陸軍歩兵學校ニ於ケル製作
供試器材ヲ見本トシテ同一機構ノモノヲ製作セシコトナシ
但類似品ハ左記時日ニ於テ「千葉市千葉六二八神田久吉」ニ命シ製作セシメタリ
昭和七年二月五日、昭和八年九月十五日、昭和九年八月二十九日及本年度ハ大演習間

陸軍

以上ニ依リ本器ノ構造ハ昭和九年四月貳拾日以前ニ於テ既ニ當校職員及兵員ノ大部並民間ノ一部ニ於テ公知ノ事實タルコトヲ證明ス

昭和九年拾壹月參拾日

陸軍步兵學校長　香月淸司

陸軍技術本部長　岸本綾夫殿

控

（寫）

證

一、昭和八年四月二十日陸軍技術本部ヨリ鎧戸式布板ヲ取外シ自在ニ支持スヘキ支持棒ヲ上杵及下杵ニ分チ該上杵及下杵ヲ軸著突板ヲ有スル金屬環竝軸著突板ヲ有スル金屬環ニヨリ二ツ折ナシ得ル如ク聯結ナセル字號布板（一昭和八年十一月十五日附陸普第七〇五五號制定ノ陸軍制式兵器ノ字號布板ト構造及作用同一ナルモノ）貳箇ノ製作註文ヲ受ケ昭和八年四月廿七日納入ス

二、昭和八年七月廿五日陸軍兵器本廠ヨリ陸軍制式兵器字號布板壹六四箇ノ製作註文ヲ受ケ昭和八年十二月拾日納入ス

右之通リ相違無之候也

昭和九年十一月二十八日

東京市澁谷區伊達町參拾八番地
日本電波株式會社
右代表者 取締役社長 後藤兼三

陸軍技術本部長 岸本綾夫殿

[illegible]

二、[illegible]八年七月[illegible]日陸軍兵器本廠ヨリ[illegible]兵器宇[illegible]布板[illegible]日納入ス

[illegible]

[illegible]

保存期限	決裁指定	決行指定
永久		

政務次官
參與官
回付

決裁前連帶課名

受領番號	参第六二二號
件名	實用新案登録異議申立ニ關シ書類提出ノ件
起元廳(課)名	陸軍技術本部

決行(決裁)後回覧課名

大臣	政務次官	次官	主務局長
參與官		高級副官	主務課長
書記官	主務副官	官房御用掛主計	主務課員
審案筆記者			

主務局課		大臣官房	
番號	銃三第二九〇號		
受領	昭和九年七月二十一日		
提出	昭和 年 月 日		
受領		昭和 年十一月十五日	
結了		昭和 年 月 日	

連帶	決行後回覧(決裁)
局長	局長
課長	課長

陸軍省 19.11.17 第198號 器材課

各部 各部 各部 各部 ... 要

陸普

副官ヨリ陸軍技術本部長ヘ通牒

七月十九日附陸技本甲第三九五號ニ依ル左記異議申立ニ関シ別紙ノ通十二月一日迄ニ書面正副二通提出相成度依命通牒ス

左記

昭和九年七月五日發行實用新案公報第千四百號

一、實用新案ノ名稱　鎧戸式示號布板

一、出願人　加賀久四郎

陸普第六九二〇號　昭和九年十一月拾六日

參第六二二號

昭和九年十一月九日

昭和九年十一月八日

特許局審査官　明石喜兵衛

陸軍大臣殿

昭和九年實用新案登録願第一〇三九四號ニ關シ（登録異議申立事件）

昭和九年十二月十一日限リ左記ニ依ル書面ヲ差出スヘシ

記

一、異議申立書ノ添付図面ニ記載セル字号布板ガ本出願前帝国内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用ヰラレタルモノナルコトヲ立証スベキ書面正副二通リ提出スベシ

（裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ）

銃砲

陸軍省 9.10.12 第260號 銃砲課

特許局審査官 9.11.10 大臣官房

注意

書類又ハ物件ニハ左ノ文例ニ傚ヒタル書面ヲ必ス添附スヘシ

文例

書類（物件）差出ノ件

昭和　年特許願（實用新案／意匠登録願／商標）第　號

發明（實用新案／意匠）ノ名稱

右出願ニ關シ昭和　年　月　日附（本書ノ日附ヲ記入スルコト）ノ通知ニ從ヒ別紙ノ通書類（物件）差出候也

昭和　年　月　日

住所

出願人　氏名　㊞

特許局審査官　氏名　殿

昭和九年十二月七日

保存期限 永久
決裁指定
決行指定

廿一

受領番號 昭和八年 參第九四七號 其七

件名 實用新案登錄證送付ノ件

起元廳(課)名 陸軍航空本部

政務次官 參與官 回付

決裁前後 連帶課名

決行(決裁)後 同覽課名

大臣 委

政務次官

次官 委

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛主計

主務課員

審案筆記者

主務局課

番號 銃三第四二三號

受領 昭和一〇年四月五日

提出 昭和十年四月十一日

大臣官房

受領 昭和年五月一日

結了 昭和年五月四日

連帶 局長 課長

決行(決裁)後同覽 局長 課長

永久甲 持許

陸普

副官ヨリ陸軍航空本部長ヘ　通牒

昭和八年十一月十八日附航甲第二四三號ニ依ル左記出願實用新案ニ關シ別紙ノ通實用新案登錄證送付ス

左記

一　陸普第二五一三號　昭和十年五月二日

航空機用機上連絡裝置

登錄第二〇六二八二號

實用新案登錄證

陸軍大臣

考案者　東京府　馬越徹雄

實用新案ノ名稱　航空機用機上連絡裝置

前記實用新案ハ登錄スヘキモノト確定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

昭和十年四月五日

特許局長官　中松眞卿　印

昭和十年四月一日
陸普第九四一號

登録査定謄本

昭和八年實用新案登録願第二九四二八號

實用新案ノ名稱　航空機用機上連絡装置

出願人　陸軍大臣

代理人

出願公告昭和九年十二月廿七日

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ

本願ニ付テハ拒絶ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ本願ノ實用新案ハ之ヲ登録スヘキモノトス

昭和十年三月廿日

特許局審査官　駒林榮太郎 ㊞

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和十年四月二日

特許局屬　高橋米太郎

(裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ)

陸軍省 10.4.-5 第4423號 銃砲課

別紙登録査定謄本ノ送達アリタル日ヨリ六十日以内ニ第一年乃至第三年ノ登録料(二十一圓)ヲ納付スヘシ
右ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ本願ハ之ヲ無效ト爲スヘシ
追テ前記登録料ノ納付ト同時ニ第四年以後ノ登録料ヲモ納付スルヲ妨ケス

殿

特許局長官

保存期限 永久
決裁指定
決行指定

政務次官
参與官 回付
決裁 前 後
連帯課名

受領番號 陸普第九四七號

件名 出願公告ノ決定謄本送付ノ件

起元廳（課）名 陸軍航空本部

決行（決裁）後回覧課名

大臣 委

政務次官

次官 委

主務局長 代

参與官

高級副官

主務課長 代

書記官

主務副官

官房御用掛主計

主務課員

審案筆記者

主務局課

番號 統二第四二三號

受領 昭和八年十二月二十日

提出 昭和九年一月十四日

大臣官房

受領 昭和　年十二月十四日

結了 昭和　年　月　日

連帯

局長

課長

決行（決裁）後回覧

局長

課長

陸軍省
9.12.18
第175號
器材課

陸普

副官ヨリ陸軍航空本部總務部長ヘ通牒

客年十二月十八日附航甲第二四三號ニ依ル左記出願實用新案特許ニ關シ別紙寫ノ通出願公告ノ決定謄本送付ス

陸普第七四九八號 昭和九年十二月廿七日

左記

航空機用機上連絡裝置

参

昭和九年十二月八日

出願公告ノ件

陸軍省
昭9.12.10
発第 号
兵器局

昭和八年實用新案登録願第二九四二八號

實用新案ノ名稱 航空機用機上連絡装置

出願人 陸軍大臣

代理人

本願ハ出願公告ヲ為スヘキモノト決定ス

昭和九年十二月七日

特許局審査官 緒方辰義

陸軍省
9.12.10
第423號
銃砲課

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和九年十二月八日

特許局屬 高橋米太郎

銃砲課

參第九四七號其五

陸軍省 昭和 9.10.20 大臣官房

航甲第二三七號

實用新案ニ關シ訂正書提出ノ件

昭和九年拾月拾九日

陸軍航空本部總務部長小笠原數夫

陸軍航空本部總務部長之印

陸軍省副官 牛島滿殿

陸軍省 9.10.20 第4423號 銃砲課

昭和九年十月十一日陸普第六一一五號通牒ニ依ル左記訂正書四通提出ス

左記

航空機用機上連絡裝置

軍

訂正書差出ノ件及訂正書ニ大臣捺印ノ上特許局ヘ送達相成度

（差出期間十一月一日限リ）

一 昭和九年拾月廿九日 銃砲課

官房御中

昭和九年十月廿九日

副

陸普第六四九〇號　昭和九年十月廿九日

訂正書差出ノ件

昭和八年實用新案登錄願第二九四二八號
實用新案ノ名稱　航空機用機上連絡裝置
右出願ニ關シ昭和九年九月二十九日附ノ通知ニ從ヒ別紙ノ通リ訂正書二通差出候也

昭和九年十月　日

東京市麹町區永田町一丁目一番地
陸軍大臣　林　銑十郎

特許局長官　中松眞卿殿

副

訂正書

實用新案ノ名稱　航空機用機上連絡裝置

右說明書中登錄請求ノ範圍訂正書ヲ左記ノ通リ訂正ス

左　記

登錄請求ノ範圍

本文ニ記載シ圖面ニ示セル如ク二個ノ受風筒ヲ導管ノ兩端ニ接續シ此導管ノ二箇所ニ通信筒ヲ出シ入レセシメ得ル如キ缺損部ヲ設ケ且此缺損部ヲ摺動スルコトニヨリテ該部ヲ開閉ナシ得ル如キ蓋ヲ設ケテナル航空機用機上連絡裝置ノ構造

陸軍大臣　林　銑十郎

保存期限	決裁指定	決行指定
永久		牛島

受領番號 參第九四七號 其四

件名 實用新案ニ関シ訂正書提出ノ件

起元廳（課）名 陸軍航空本部

陸軍省 9.10.12

主務局課 番號	主務局課 受領	主務局課 提出	大臣官房 受領	大臣官房 結了
欽三第四二三號	昭和九年七月一日	昭和九年十月十日	昭和　年十月十一日	昭和　年　月　日

大臣

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛主計

主務課員

審案筆記者

連帯 局長 課長

決行（決裁）後回覧 局長 課長

政務次官參與官回付

決裁前連帯課名

決行（決裁）後回覧課名

陸普

副官ヨリ陸軍航空本部長ヘ通牒

客年十一月十八日附航甲第二四三號ニ依ル左記出願實用新案ニ關シ別紙寫ノ通照會アリタルニ付十月二十五日迄ニ訂正書四通提出相成度依命通牒ス

左記

陸普第六一一五號　昭和九年拾月拾壹日

航空機用機上連絡装置

契

銃砲

參九四七號

昭和九年拾月壹日 發送

陸軍省 9.10.-3 第4023號 銃砲課

昭和九年九月廿九日 特許局長官

陸軍大臣 殿

昭和八年實用新案登録願第二九四二八號ニ關シ

昭和九年十一月二日限リ左記ニ付訂正書二通ヲ差出スヘシ

右ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ本願ハ之ヲ無效ト爲スヘシ

記

訂正書ヲ見ルニ猶不備ノ点存スルヲ以テ訂正ヲ要ス

一、「登録請求ノ範囲」中ニ「鉄櫃部ヲ摺動スルカ又ハ回転スルコトニヨリテ」ナル記載アルトモ斯ノ如キハ二個ノ考案ニ亘ルモノト認ムルヲ以テ其何レカ一方ニ限定スヘシ

又同項中ニ於テハ導管ノ両端ニ受風管及尖板部ヲ設ケタル点ニ付キテモ記載スヘシ

（裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ）

本文記項中ノ「本目的ヲ達成シ得ル如キ」ヲ削除スベシ

四

三

二

第二ハ捺印ヲ要ス（省略ス）

年　月　日

特許局長官　殿

出願人　氏　名　印

注意

一

航甲第　一五二號

出願實用新案ニ關シ訂正書提出ノ件

昭和九年七月十二日

陸軍航空本部總務部長　小笠原數夫

陸軍省副官　牛島滿　殿

昭和九年七月二日陸普第四〇六九號通牒ニ依ル左記實用新案ニ關シ訂正書四通提出ス

左記

航空機用機上連絡装置

陸軍航空本部總務部長之印

参第九四七號

陸軍省　昭和9.7.13

陸軍省 9.7.1　銃砲課

訂正書差出ノ件及訂正書ニ大臣捺印ノ上特許局ヘ送達相成度

（差出期日ハ七月二十六日限リ）

昭和九年七月十八日

銃砲課

副官　御中

昭和九年七月十八日

副

陸普第四四四九號　昭和九年七月十八日

訂正書差出ノ件

昭和八年實用新案登錄願第二九四二八號

實用新案ノ名稱　航空機用機上連絡裝置

右出願ニ關シ昭和九年六月廿三日附ノ通知ニ從ヒ

別紙ノ通リ訂正書二通差出候也

昭和九年七月　日

東京市麴町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣　林　銑十郎

特許局長官　中松眞卿殿

官房控

訂正書

實用新案ノ名稱　航空機用機上連絡裝置
右説明書中登錄請求ノ範圍ヲ左記ノ通リ訂正ス

左記

登錄請求ノ範圍

本文ニ記載シ圖面ニ示セル如ク受風筒ヲ導管端末ニ接續シ此導管ノ一部ニ通信筒ヲ出シ入レセシメ得ル如キ缺損部ヲ設ケ且此缺損部ヲ摺動スルカ又ハ回轉スルコトニヨリテ該部ヲ開閉ナシ得ル如キ蓋ヲ設ケテ本目的ヲ達成シ得ル如キ航空機用機上連絡裝置ノ構造

陸軍大臣　林　銑十郎

保存期限 永久
決裁指定
決行指定 (印) (印 牛島)

受領番號 八年參第九四七號其二
件名 出願實用新案ニ關シ訂正書提出ノ件
起元廳(課)名 陸軍航空本部

政務次官 參與官 同付
決裁前後 連帶課名 (印)
決行(決裁)後回覽課名

大臣 (委)
政務次官
次官 (委)
參與官
高級副官 (印 牛島)
書記官
主務局長 (印 石井代)
主務課長 (印 石井)
主務副官 官房主計 御用掛 (印) (印)
主務課員 (印)
審案筆記者 (印)

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
銃八年三第四二三號	昭和八年二月二日	昭和九年七月二日	昭和年月日	昭和年月日

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長 (印)	課長

陸普

副官ヨリ陸軍航空本部總務部長ヘ通牒

客年十一月十八日附航甲第二四三號ニ依ル左記出願實用新案ニ關シ別紙ノ通照會アリタルニ付七月十九日迄ニ訂正書四通提出相成度依命通牒ス

左記

航空機用機上連絡裝置

陸普第四〇六九號　昭和九年七月二[redacted]

昭和九年六月廿五日

参第九四七號 其二 發送

特許局長官

昭和九年六月廿三日

陸軍大臣 殿

昭和八年實用新案登錄願第二九四二八號ニ關シ

昭和九年七月廿六日限リ左記ニ付訂正書二通ヲ差出スヘシ

右ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ本願ハ之ヲ無効ト為スヘシ

記

一、登錄請求ノ範囲ニ於テハ本願ノ新規トスル點ニ付構造ノミヲ具体的ニ記載シ其作用及効果ニ付記載セサルヲ可トス

（裏面ノ記載事項ニ注意スヘシ）

陸軍省 昭和9.6.25 大臣官房

陸軍省 9.6.27 第423号 銃砲課

銃砲

陸普第七三四七号

願書番號通知

昭和八年實用新案登錄願第 29428 號

昭和八年十一月二十九日差出ニ係ル實用新案登錄願書ニ附シタル番號右ノ通ニ付之ヲ通知ス

追テ以後本件ニ關シ書類、雛形、見本等ヲ差出ストキハ必ス之ニ前記願書番號（昭和　年實用新案登錄願第　號）及實用新案ノ名稱ヲ記載シ印形ハ願書ニ押捺シタルモノヲ使用スヘシ

昭和八年　月　日
昭和八年十二月五日

特許局

参　第九四七一

陸軍省 8.12.8 銃砲課

陸軍省 大臣官房 8.12.7

陸軍

[redacted]

銃砲

陸軍省
参第九四七號

航甲第二四三號

實用新案登錄出願ノ件上申

昭和八年十一月十八日　陸軍航空本部長　杉山　元

陸軍大臣　荒木貞夫殿

左記考案ニ對シ別紙願書及説明書各四通讓渡證二通送付セルニ付實用新案登錄出願セラレ度

左記

考案ノ名稱
航空機用機上連絡裝置

考案者
陸軍航空本部附
陸軍砲兵上等工長　馬越徹雄

陸軍省 8.11.20 大臣官房

陸軍省 8.11.24 175 器材課

陸軍省 8.11.20 423 銃砲課

陸軍航空本部長之印

本文申越ノ通實用新案登錄願及説明書(圖面)ニ大臣捺印ノ上讓渡證ト共ニ特許局ヘ送達セラレ度

昭和八年十一月廿九日

官房御中

銃砲課

本出願ニ関シ御意見承知致度

十一月廿一日

兵器局器材課御中

銃砲課

陸軍省兵器局器材課